



人権教育シリーズ⑧

市では人権教育の推進のため、さまざまな活動や啓発に取り組んでいます。ここでは、取り組みの内容や情報を定期的にお知らせしていきます。

いのちを大切にできる感性豊かな児童をめざして ～西合志南小学校～

昨今、「心の教育」が叫ばれていますが、残念なことに命の尊さや人権の大切さを心に刻めずに育っている子どもがいることをよく聞きます。本来、子どもの持つ純粋な「心」に、「人権感覚」をしっかりと植え付けなければならないのです。

しかし、さまざまな社会のひずみ（家庭環境の厳しさ、誤った情報のはらん、人間関係の希薄化など）は、それをむしばんでいます。どの子どもも夢と希望を持って生きていけるようにすることは教育の責務です。そのためにも「いのちを大切にできる感性豊かな児童」を育てていかなければなりません。

これまで、本校における人権教育は、差別が見えなくなっていることと、教育・就職の機会が十分に保障されてこなかった実態をとらえて、子どもたちの持つ可能性や能力を伸ばすことを目指して取り組んできました。特

に、いろいろなきつい思いをしている子どもたちのことを中心に取り組んできました。

本校の6年生は、人権学習で恵楓園の学習をしています。夏休みにまず教職員が恵楓園で学習し、その後、6年生が学習しました。ハンセン病や恵楓園について学び、恵楓園の入所者のお話を聞き、ボランティアガイドの説明を受けながら園内を真剣に見て回りました。ハンセン病は治る病気なのに、恵楓園から出られず故郷に帰ることができなかったこと、間違った見方や考え方で差別をしてほしくないことなどを感じていきました。

次に恵楓園の現地学習の後、学校でハンセン病について学習し、「恵楓園のハンドブック」を班毎に作っていました。それを保護者の皆さんに発表し、保護者から感想を書いてもらいました。児童だけでなく、保護者にも参加してもらって恵楓園の学習を行なっています。

入所者の講話を聞いた6年生の感想

入所者の人が12歳の時、お母さんから「赤ちゃんにさわらないで」と言われました。いつもやっているから不思議な気持ちになったと思います。そして、「近所の人に見られたらいけない」と言われました。その時はそんなにいやではないと思っていたと思いました。でも、それを一年やり遂げたときは、すごく悲しくなり死にたいと思いました。家族が苦しむから頑張ったと思います。そして、恵楓園に入れられて、仲間からいろいろ言われ、きつかったと思いました。

そして、「火葬場の煙になって出るよりほか、ここから外に出る方法はない」と言われて苦しくて、恵楓園で生きてきたと思いました。国はハンセン病を「うつる」「こわい」と思いこませ、そのまちがった見方、考え方が差別をうみ、その差別が苦しみ、親兄弟、友だちを切り離し、故郷をうばっていて悲しんだと思います。だから、ほくたちに、差別をしてほしくないと思ったと思います。差別をなくしていこうと思います。そして、一番伝えたいことは、まちがった考えをして、差別をしてほしくないと思って、思い出したくないことを思い出し、ほくたちに話してくれたので、ほくもそのことを考え、差別をしていかなないようにしていきたいです。

6年生保護者の感想

こんなに身近な場所にある恵楓園について、何も知らず申し訳なく思いました。子どもが作成したガイドブックを読んで、火葬場跡や納骨堂までであるという現実が、「死んでもここから出られない」という言葉を、より一層実感させられました。ハンセン病がうつる病と言われていたのは、昔のことと覚悟していましたが、平成15年のホテル宿泊拒否事件は熊本で起きました。差別は続いているのだと感じたことを記憶しています。ハンセン病が誤解されたまま伝わっていったら、差別は終わりません。近隣に住む者としても、ハンセン病を学習し、正しく理解していくよい機会だったと思います。

そして、今回、わが子が家族と親戚に詳しく伝えたこと、嬉しく思います。ありがとう。一冊完成されたガイドブック、とても分かりやすく、ていねいにまとめでありました。



園内を見学する教職員



入所者の話に聞き入る児童

次回は6月号に掲載予定です。

環境通信

問い合わせ先

環境衛生課(合志庁舎) ☎248-1202

E n v i r o n m e n t

ごみの資源化を進め、さらなる循環型社会の実現に向けて、4月からほとんどのプラスチック類を「資源物」として回収します。

今までは「燃やすごみ」に出していたプラスチック製品も、ほとんどが「資源物」として出せるようになります。ご協力をよろしくお願いします。

新たに対象になるプラスチックとは？

●プラスチック以外の部品がついていないプラスチック製品



CDケース・ビデオケース



プラスチック製の食器



プラスチック製のおもちゃ



タッパー・お弁当箱

●チューブタイプの容器包装や油のボトル

今までは汚れが落ちにくいという理由で「燃やすごみ」に分類されていた以下の品目も、よく洗うことで「資源物」として出すことができます。



マヨネーズなどのチューブ容器



中を洗って出してください

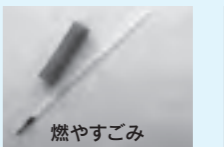
●他の素材との複合品も分解してプラスチック部分は「資源物」へ！



例)ボールペン



プラスチック部分は資源物へ



燃やすごみ



小型金属(資源物B)へ

プラスチック類はどのようにリサイクルされるの？

回収されたプラスチック類は、大きく分けて2つのルートでリサイクルされます。

●サーマルリサイクル

サーマルリサイクルとは、廃棄物から熱(サーマル)を生み出し再資源化するリサイクルのことです。プラスチックの主な原料は石油です。いらなくなったプラスチックから固形燃料(RPF)を作り、ボイラーの燃料などに使用することで、資源の消費を抑制する効果があります。



固形燃料(RPF)

●マテリアルリサイクル

マテリアルリサイクルは、製品を再び原料(マテリアル)に戻し、新たな製品を生み出すことができるリサイクルのことです。ごみを燃やすことなく再び商品にできるため、サーマルリサイクルよりも環境負荷が低いとされています。



ペットボトルペレット

ごみ出しルールの徹底をお願いします！

2月3日、幾久富でごみ収集車の火災が発生しました。消防署の調べでは資源物A(びん類・缶類)の中に混入していたライターが原因とのことでした。その他、ごみ収集車火災の原因としてはスプレー缶などの穴あけがされていなかったり、ストーブなどを出した際の灯油や電池が抜き忘れていたりなどが考えられます。

ごみ収集車の火災はごみ収集の遅れをまねくだけでなく、収集作業員の命に関わる重要な問題です。ライターは必ず使い切ってから燃やすごみへ、スプレー缶などは中身を使い切ってから穴をあけてから、ストーブなどを出す際は灯油の抜き忘れに注意して出しましょう。市民の皆さんのご協力をお願いします。



火災の原因となったライター